

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2285 号

Utility of weekly docetaxel combined with preoperative radiotherapy for locally advanced esophageal cancer from pathological analysis

(病理解析から見た局所進行食道癌に対するウィークリードセタキセル併用術前放射線化学療法の有用性)

榎田 知志 (くしだ ともゆき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、以下の特徴を有する。胸部食道癌は悪性度が高く、さまざまな集学的治療法の開発が行なわれている。局所制御に優れた術前化学放射線療法 (以下 CRT) は近年急速に普及し、その有用性も報告されている。しかしながら従来行われてきた 5-FU、CDDP (以下 FP 療法) 併用 CRT は腎機能低下症例には投与量の減量を余儀なくされ、また骨髄抑制の副作用も多く、入院治療が必要である。しかし、Docetaxel (以下 TXT) 併用 CRT は腎機能低下症例においても減量の必要がなく、骨髄抑制も FP 療法と比べ少ないため外来通院治療が可能であり、医療経済的にも患者負担の軽減につながる。また術後の長期予後においても食道癌の予後因子であるリンパ節陽性例に対して FP 療法群と比べ優位に予後良好であることを示し、従来の FP 併用 CRT と比べても非劣性を始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。